

赤川浩爾先生への感謝と思い出

氏 名 浅野 芳宏

赤川浩爾先生と昭和 42 年頃初めてお目にかかったきっかけは、私が在職していた岡山大学工学部機械工学科流体力学研究室の広瀬幸治教授の紹介でした。赤川先生と広瀬先生は京都帝国大学の航空工学科で同級生でした。

神戸大学の出身者でない私ですが、以前から興味をもっていた二相流、特に気液二相流に関する研究のご指導をお願いしたところ、快くお引き受け下さいました。当時私は、若干 28 歳でした。最初は気液二相流の基礎的な指導をして戴き、具体的な研究テーマは「気液二相ペルトン形タービンの性能」となりました。地熱発電において蒸気と熱水を分離せず、そのまま二相流でタービンを回す実験的研究を、空気・水二相流でペルトン水車を利用して行い、基本的特性を得ました。お忙しいところを毎月お伺いした部外者である私に、実験への取り組み方やデータの整理などを懇切丁寧に指導して戴いたのを思い出します。赤川先生と連名で発表した論文を見て、後日、九州電力の方が来られ色々聞かれました。改めて先生は貴重な研究テーマを私に下さったのだなと思い、非常に嬉しかったのを覚えています。

その後、津山高専に転任してからも色々研究のご指導を受けて、無事に定年退職を迎えることができました。

高専では地域協力の仕事もしていましたが、企業の相談にも乗り活躍をされていた先生から貴重な助言を戴き、検討していた「地域共同テクノセンター」の設置を決めることができました。

これだけお世話になりながら先生には何の恩返しもできませんでしたが、先生の故郷に残された農地などのことについて尋ねられたので、農地を所有している私の分かる範囲内の話をしたら喜ばれました。こんなことだけで、先生には何のお返しもできず申し訳なく思っています。

この追悼文を書いていく内に、研究室でご指導して戴いたときの先生のお顔が目に浮かび、声が聞こえてくるようです。改めて赤川先生に出合えてご指導を受けたことに感謝し、ご冥福を心よりお祈りいたします。

(終)

追悼文受付日：平成 29 年（2017 年）1 月 24 日 赤川先生－29

事務局注記：

赤川研究室の卒業生以外に、赤川先生と所縁のある方々へも追悼文の呼び掛けを致しておりましたが、その呼び掛けに応じてお寄せ頂いた追悼文です。事務局として感謝しながら拝受いたしました。

以上